

## 群馬県居住支援サービス連絡協議会 令和4年度 事業報告

### 【事業の成果】

当年は、県内の居住支援法人で群馬県居住支援サービス連絡協議会を創設し、具体的協働の開始や、関連する多様な支援者層（専門職、企業、行政、オーナーなど）に居住支援の必要性を伝え、今後の参画を促すシンポジウムを実施できた。また住宅確保要配慮者に年末年始の緊急支援を行い、その後の希望する物件の入居につなげ精神的な安心や自立支援に役立つパイロットケースをつくることができた。これらの実践の中で得られたノウハウや課題認識を活かし、次年度以降の更なる体制構築につなげていく。

①シンポジウム開催（一般 55 名、関係者 13 名）による群馬県の居住支援の啓発を多様な支援者層に対して行い、居住支援の必要性や具体的な取り組みを伝え、県内の住宅セーフティーネット体制強化の一助となることができた。

②公営住宅の空き室有効活用、朝倉団地 2 部屋 3 名、中尾団地 2 部屋 3 名、計 5 名退去後全てスムーズに公営住宅及び民間賃貸住宅に目標通り転居できた。

### 【主な活動】

定例会議：4/12, 特別養護老人ホームほなみ、7 名、6/24, 高崎市ソシアス、8 名  
8/22, 高崎市ソシアス、8 名、10/25, 高崎市ソシアス、8 名、  
12/16, ZOOM、8 名、1/17, 臨時 ZOOM、7 名、3/15, 特別養護老人ホームほなみ、7 名

シンポジウム:R5. 1/23、エテルナ高崎 68 名（一般 55 名、関係者 13 名）

その他：6/22, 県庁 28F、群馬県居住支援協議会総会（会長 活動報告・説明）  
9/7, 県住宅供給公社ビル、群馬あんしん賃貸ネットのホームページ打ち合わせ  
（事務局 2 名）  
9/26, 県庁 22F 住宅政策課、公営住宅一時利用会議（県 3 名、連絡協議会 3 名）  
10/22, グランビュー高崎、住環境向上セミナー（日本賃貸住宅管理協会主催）  
（会長 1 名、県担当と説明）

### 【今後の課題】

- \* 居住支援に理解のある不動産店、オーナーを行政と連携して増やしていかなければならない。
  - \* 入居契約時の緊急連絡先になってくれる人がいない、初期費用がなくて入居困難な要配慮者の対応。
  - \* 短期利用後、新居に入居する場合電化製品等がない要配慮者が時々いるのでその対応が難しい。
- ☆持続可能な居住支援のための重層的支援体制および補助金制度に関する国および自治体への政策提言

群馬県居住支援サービス連絡協議会 令和4年度 収支報告

◆ 収入の部

資金項目	金額(円)	【特記事項】
① 共同募金会からの助成金	1,000,000	下記の支出全て共同募金助成事業の対象経費とした。その他費用（関係者交通費、事務局人件費、事務局消耗品費等諸経費）は各法人の負担としたため、当会の支出としては計上していない。
② 他からの補助金・助成金	0	
③ 会費収入	0	
④ 前期繰越金	0	
⑤ 合計	1,000,000	

◆ 支出の部

経費項目	金額(円)	経費の内訳(概算)
諸謝金	47,480	シンポジウム講師料（中尾様）
旅費交通費	178,500	シンポジウム講師交通費宿泊代、スタッフ高速代
消耗品費	54,669	
印刷製本費	9,358	印刷代（シンポジウム案内チラシ・資料、会議資料）
使用料	699,509	公営住宅4部屋家賃(2カ月使用)、シンポジウム会場費、協議会会議会場費
通信運搬費	8,834	宅配、郵便代
備品購入費	0	
その他	1,650	金融機関手数料（振込手数料、現金扱手数料）
⑥ 合計	1,000,000	

◆ 収支差額・繰越金

収支差額(収入合計⑤—支出合計⑥)	0円
次期繰越金	0円